

健康日本21 (第2次) にある「ロコモティブシンドロームを認知している国民の割合の増加」では認知度80%が目標であるが、2017年3月時点で国民全体の認知度は46.8%にとどまっており、その理由として高齢者以外の認知度が低い点がある。60歳代の男女ではそれぞれ、46.1%、68.8%であり70歳代の男女ではそれぞれ58.3%、78.6%と高齢者では目標に迫っているのに対し、40歳代では37.5%、44.7%、50歳代では38.1%、52.1%にとどまっている。この事態に対応するために、ロコモ チャレンジ! 推進協議会では中年期の国民に年代別の基準値を示し、自らの検査値と比較することで、ロコモを自分事化してもらえるのではないかと考えた。

2017年7月から始めた調査では、正規分布である2ステップテストの平均値の誤差率を1%とした場合のサンプル数が464、非正規分布である立ち上がりテストとロコモ25の信頼水準95%のサンプル数が384なので、その多い方464サンプルを収集することとした。地域在住の一般男女 20~29歳、30~39歳、40~44歳、45~49歳、50~54歳、55~59歳、60~64歳、65~69歳、70~74歳、75~79歳、80~89歳の各年齢男女それぞれ464サンプル (計10208人) の登録を目標としている。全国7地域 (北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州) の各地域に人口比を基にそれぞれ該当人数を設定し、1組464サンプルの内訳は、北海道20、東北33組、関東157、中部78、近畿82、中国・四国41、九州53となっている。各地域の該当人数に応じた研究分担者を募り、また協議会からお願いして調査している。得られたデータは個人を特定できない形で協議会が受け取り、収集と分析を

行っている。協議会ではその結果を基に、年代別日本人のロコモ度テスト平均値を作成し発表する予定で、2018年6月を目途に進めており、2017年12月の時点で登録者は3000人を超えている。シンポジウムの発表時点での進捗状況を報告する予定である。